

衛生上より觀たる」

「幼稚園の效果

虛弱兒童健康相談所長 醫學博士

岡 田 道 一

幼稚園へ幼兒を通はせることは、幼兒に對して精神的に又身體的にどんな效果があるだらうか？、と云ふ質問を受けることが度々あります。それで幼稚園教育と云ふものゝ效果はさう云ふ點にあるかと云ふことを簡單に述べて見たいと思ふのです。

第一に幼稚園に幼兒を通はせることには全然何等の效果もない——と否定する論者もないことはありません。然し從來の多くの人々の經驗と研究とによつて、幼稚園教育には充分の效果があることは既に確定された事實なのであります。中には幼兒時代の教育の當否は、精神的にも亦肉體的にもその人の一生を支配する程の重要性を有して居る

と斷言して居る者もあります。

實際に於ては、然し幼稚園教育の効果を數量的に表すこと云ふことは非常に困難でありますので、隨つて之の效果に對して疑問を抱かれる人々も多いのであります。それ故何とかして幼稚園教育の効果を數量的に測定し、之を指示しやうと試みたことが屢々ありますが、然し十分に信用するに足りるものはないやうであります。

幼稚園に於ける精神的の教育効果を認めることは比較的簡單ではないか、即ち家庭から直ちに小學校に入學した幼兒と、幼稚園から小學校へ入學した幼兒との、諸學科に於ける成績を比較して見たら一目瞭然ではないか、と簡單

に考へる人もあるでせう。然し現在でもまだ家庭から入つた幼児ミ、幼稚園から入つた幼児ミの成績を比較するべき正確な材料は甚だ貧弱であります。之は幼稚園修了児が數に於て非常に僅少であるばかりでなく、幼稚園に於ける教育には現在も尙一定の方針がなく、各個により非常に相違して居る點から見て、誠に止むを得ない次第であります。それ故に此の小學校に學科成績によつて幼稚園教育の効果を判定しやうとするには、非常な危険が伴ふのみでなく、時としては全然誤つた結果に到達するかも知れないのであります。

次に身體的の教育効果の比較ミ云ふことも亦非常に困難を伴つて居ります。ここは明らかでありまして、家庭から直接小學校に入學した幼児ミ、幼稚園教育を経験した幼児ミの、小學校に於ける身長、體重、胸圍の發達の割合を測定したり、又各種の疾病に罹る割合ミか、體格検査の概評の比較ミ云ふ様な方法を以て、之を表示しやうとした試みを企てた人もありますが、身體的の發達に對する効果を僅か一年や二年の、しかも一日三時間か四時間の幼稚園教育の

有無によつて判定しやう云ふことは、寧ろ無謀ミ云ふべきであつて、之は幼児の出生後から小學校に入學する迄の家庭に於ける基礎的注意の有無によつて、竝に小學校に於ける衛生的の考慮の如何によつて大いに影響されることであつて、幼稚園教育の効果は、現在に於いては、此の點に對してはほんの僅かばかりの關係しか持つて居ないのであります。然し本來から云へば、此の身體的發達の基礎事業としての幼稚園教育の効果ミ云ふことは、最も重要視すべき點であつて、幼稚園教育がもつこもつこ此の點に眼覺め、此の點に力を入れたならば、その効果の大いに見えるべきものがあるであらふ、ミ云ふ事は斷言し得られるのであります。然し現在の幼稚園教育は此の點に於て、可成り不満足なものであることは云ふ迄ありません。

現在に於ては幼稚園の効果を、智的發達の點にのみ求めやうとする人々が、非常に多い様であります。之は普通幼稚園の成績考査はさう云ふ風にするか、幼稚園の教授要目はどんなことか、幼稚園ではどんな試験をするか——ミ云ふ様な質問を受けることが非常に多い事から見ても判りま

す。また幼稚園へ行くこませるから困るこか、幼稚園へ行く物を憶えるからよいか云ふ人の澤山あるのを見ても判ります。

然し乍ら小學校でも今日に於ては、既に知育一點張りから教育効果を判定するこは甚だ妥當を缺くものであるこ云はれて居るのでありまして、まして幼稚園の効果を知識取得こ云ふ點から判断するこは無謀こ云ふより他ありません。

精神的の方面からだけ云つても、幼稚園教育の眞髓はいろ／＼の知識を注入したり、唱歌や遊戯を數多く數へたり、折紙や手工を習はせるこ云ふ様な點に存するものではなく、幼稚園教育では精神發達の基礎を涵養するこ云ふこゝが重要點なのであつて、感覺器官を練磨して感覺、知覺を確實にし、觀察力を養成し、經驗を豊富にするこゝに努力すべきであつて、文字の知識や、死んだ書物の知識を多く授けるこゝは問題外なのであります。例へば折紙細工をさせるにしても、その方法をよく記憶したごうか云ふ點に目的が存在するのではなく、その動作、作業によつて養

成された能力、經過に對して價値を認めるものであります。

更に身體的の方面に對する基礎の確立こ云ふ事は、以上の精神的の方面よりも、より以上に重要視すべき幼稚園教育本來の使命こ云ふべきでありまして、單に遊戯や運動をさせるこ云ばかりでなく、睡眠、休息、榮養、こ云ふ様なあらゆる衛生的の方面に注意を拂ひ、之を善導し、良い習慣を確立し、身體の圓滿な發達を完からしめるやう、家庭に對し、又幼兒に對し、充分な教導を行ふこゝこそ、幼稚園教育の目的なのであります。

處が此の點から見るこ現在の多くの幼稚園教育が兎角教へるこゝに力を注いで、身體の發達を促進し、健康を確立するこゝを疎かにする傾きを有して居て、身體的の教育を度外視して居るこ云つては餘りに酷かも知れないが、却つて輕視して居る處が多い様に見受けられるのは誠に心外であつて、當事者自らがその根本的價値を顛倒視して居る様では、效果の薄いこゝは勿論、一般の人々に對してその効果を認識させるこゝの難いのは云ふ迄もない事である。

幼稚園に行く様になつて身體が著しく丈夫になつた。幼

兒の生活が規則正しくなつた。食物を選び好み若くは偏食しない様になつた。食慾も進み、元氣も出て、快活になつた。よく遊ぶやうになつた。よく眠るやうになつた。身體を清潔にする習慣がついた。風邪をひかないやうになつた。お腹をこわさない様になつた——等云ふ様に、幼兒の生活方面に充分な効果が認められてこそ、幼稚園教育の眞の効果が擧つた云ふべきであります。

幼稚園は幼兒の樂園であり、幼兒の遊び場所であり、幼兒同志の楽しい天國でありますから、幼兒が喜び勇んで幼稚園に行く様でなくては幼稚園教育の効果は擧らないのであります。此の點のみから云つても、現在の幼稚園の設備が、完全から程遠いものであることは多くの人の認めて居る處であります。然し始めから物に對して萬全を求めるところは不可能でありますから、一步一步に現在の設備を改善して行くより他に致し方はありませんまい。特に身體的の發達を助長するところを本來の目的とする幼稚園としては、衛生的の設備を完全にすることに更に一層の努力を拂ふと共に、當事者も亦此の點に特に意を用ひてこそ、その効果

は一層著しくなるのであります。

家庭は本來子供本位であるところが望ましいのですけれども、實際にはそう思つても生活上の爲めに仲々そう行かないもので、つい大人本位になり勝ちな爲め、子供の生活が犠牲にされる場合の多いものです。それ故一日中に數時間だけでも子供本位の楽しい遊び場所が得られたら、子供はそんなに楽しく仲々々精神的にも亦身體的にも良い影響を蒙るかも知れない。危険がなく、安全で、精神的にも身體的にも不良な影響を及ぼすことのない子供の樂園——それが即ち幼稚園であります。そんな子供でも四五歳になれば遊び仲間を求めて幼稚園に行きたがるもので、幼稚園の効果は子供の遊び場所であることで盡きて居る云つてもよい位である。幼兒にまつては遊んで居る事が彼等の生活の全體であり、其の遊んで居る間に彼等の精神も身體も次第に發達するものでありますから、幼稚園が子供達の楽しい遊び場所であることは、即ち子供等の精神及び身體の發達により影響を與へずにはおかないものであります。

世の中には、此の兒はませて居るから幼稚園に入れない

——云ふ人がありますが、之は實に間違つた考へで、子供

がませて居る云ふ事は、子供が子供らしくなく大人びて居るこゝを意味するなら、それは家庭で子供が大人を相手にして遊び、大人の生活をそのまゝにまねて居るに過ぎないのであつて、こんな子供こそ幼稚園に通はせて、本當の子供の世界に浸り子供らしく發達する様に心掛けなければならぬのである。又此の兒はこんな癖があるから幼稚園に入れる可い愛想だ云ふ親があるが、これは子供を既に固定した傾向習慣を持つものを見做した誤解であつて、元來子供の性質習慣は決して固定したものでなく、段々に變化する可能性のあるものである以上、子供を幼稚園に入れる可否は論ずる迄もないのである。

凡ての子供は成るべく幼稚園に入れる必要がある。子供の樂園である幼稚園は子供の精神的並に身體的發達に對して必ず良い影響を與へるものであつて、例へその結果が數量的に測定されるものでないにしても、後來の發達を助長し、完全に圓滿な發達を遂げしめる上に於て、充分な効果を有して居る事は、既に多くの經驗的研究に依つて明

らかにされて居る。

唯附近に適當な幼稚園がないとか、幼稚園に通はせる事情のない場合は止むを得ない。但し幼稚園は決して家庭教育の代りでもなく又小學校の準備教育でもないから、幼稚園教育の効果を數量的に過大視することは慎むべきであるけれど、幼稚園へ通はしても文字一つ憶へない云々云つて幼稚園教育を輕視することは非常な誤解であるこゝを明らかに認識して欲しい。そして現在の幼稚園當事者もその效果の身體的であるべき本來の目的を理解し、その設備の方針に於て此の方面への影響をもつて重大に考察するこゝを望んで止まない次第である。

小兒科・整形外科

虛弱兒童健康相談

醫學博士 岡田 道一

午前 豐島區長崎仲町一ノ二七九〇
午後 京橋區銀座西六ノ二